

A large, stylized green tree illustration occupies the left side of the page, extending from the top to the bottom. It has a thick trunk and a dense, rounded canopy of leaves. In the bottom left corner, there is a smaller, lighter green illustration of a row of trees.

2017 AEON Sustainability Pamphlet

イオン環境・社会への取り組み



木を植えています

私たちはイオンです

イオンは、お客さまとともに、持続

世界は課題にあふれています。

地球温暖化や自然資源の枯渇、地域コミュニティの衰退、貧困問題、などなど。

イオンの仕事は、お店で商品を販売することだけではありません。

地域に根ざし、人々の暮らしに密着した事業を行うイオンができることは、たくさんあるはず。

私たちは環境や社会の課題を、自分たちが取り組む課題と考えています。

課題を解決する仲間は、たくさんいます。

イオンは、お客さまや地域の皆さまとともに、持続可能な社会をつくっていきます。



可能な社会をつくっていきます。

お店の敷地で

植樹活動25周年
木を植え、ふるさとの
森を育てています

商品で

社会からの多様な
期待にお応えする
商品を提供しています

店頭で

イオンのお店を拠点に、
環境や社会に貢献する
活動を行っています

地域社会で

みんなが笑顔になれる
ような地域社会づくりに
取り組んでいます

イオン
森の循環
プログラム

ご当地
WAON

イオン
チアーズ
クラブ



植樹活動25周年

木を植え、ふるさとの森を育てています

植樹活動の原点

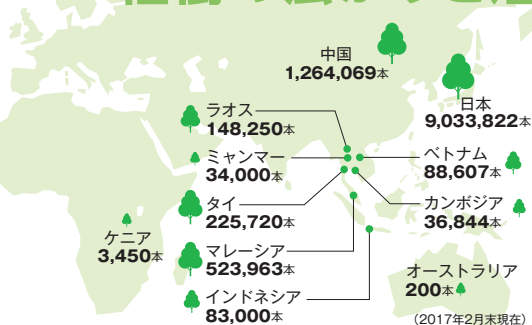
いまから50年ほど前の1960年代。当時ジャスコ株式会社（現イオン株式会社）の社長だった岡田卓也（現名誉会長相談役）は、三重県四日市の自宅の庭に植えた南天の花が咲かなくなったことに、地球環境の異変を感じました。「自然の恵みを失うことは、豊かさの根源を失うこと」と

いう大きな危機感を抱き、「小売業としてできることは何か」を考えた結果、1991年より植樹活動を開始しました。

世界各地のお客さまとともに進めてきたイオンの植樹は、2016年に25周年をむかえました。イオンはこれからも、未来につながる植樹活動を続けていきます。

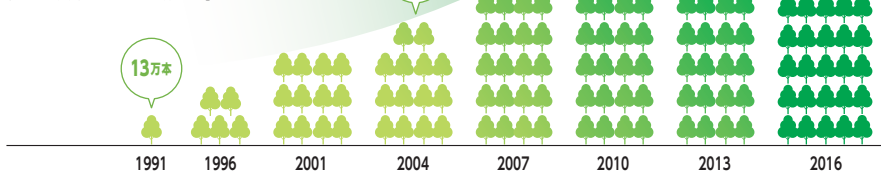


植樹の広がり活動のあゆみ



現在の植樹
合計本数 **11,441,925本**

※本数は以下の合算です。
(2017年2月末現在)
「イオン ふるさとの森づくり」、(公財)イオン環境財団による植樹、
「イオン 東北復興ふるさとの森づくり」



「イオン ふるさとの森づくり」
マレーシア ジャスコマラッカ店
(現イオンマラッカSC)



「イオン ふるさとの森づくり」日本1号店
ジャスコ新久居店
(現イオン久居店)



中国「万里の長城・森の再生プロジェクト」
1回目の植樹を実施
イオングループ環境財団(現(公財)イオン環境財団)



「イオン 東北復興ふるさとの森づくり」
東日本大震災被災地での植樹を実施
イオンタウン塩釜

イオン森の循環プログラム

国産 FSC® 認証木材を
使用した店舗の拡大
(ミニストップ(株))



適切に管理された森から生産された木材を、
商品原料や店舗の資材に活用していきます。

木 活 か す

FSC® 認証商品

2008年からFSC®
認証紙を使用した
商品を販売してい
ます。



ミツクス
環境配慮型製品
FSC® C005942
FSC® 認証紙を
使用したトップバリュ
ベストブライズ
ティッシュペーパー

木 植 え る



イオン
森の循環プログラム

「イオン ふるさとの森づくり」

地域のため、未来のために、
次の1,000万本に向けて木を
植え続けていきます。

緑あふれるショッピングセンターに育っています



2006年(植樹)
Before



2016年
After

(イオンモール浦和美園)

木 育 て る

森を育て、森の
循環がもたらす
恵みによって、
人々の暮らしを
豊かにすること
を目指します。



林業の後継者を育成する
「森つなぎプロジェクト」を
2014年から開始

社会からの多様な期待に お応えする商品を提供しています

お客さまの声がブランドの原点

トップバリュ

イオンのブランド「トップバリュ」は、「お客さまの普段の生活をより良く」との思いから生まれました。品質や価格、食の安全・安心など、お客さま視点でこだわった各種ブランドを展開しています。

トップバリュ



こだわりぬいた
最上級ブランド



生活品質
向上ブランド



納得品質・低価格
ブランド

トップバリュ グリーンアイ



農業や化学肥料など
を使用しない有機栽培
を行い、公的なオー
ガニック認証を受け
ている商品



化学合成された薬
品や飼料の使用を
可能な限り抑えて
生産・飼育開発され
た商品



お客さまが購入の際
に気にされる添加物と
原材料の中の109種
類*に配慮して開発し
た加工食品等の商品

*フリーフロム:「free」は「ない」または「存在しない」を意味し、食品における「free from」は、一般的にはお客さまが気にされる添加物や原材料を使用していないことを指す。

*109種類:合成着色料29種類、合成保存料15種類、発色剤3種類、防かび剤5種類、合成甘味料10種類、調味料(アミノ酸)23種類、調味料(核酸)6種類、酸化防止剤3種類、漂白剤3種類、製造用剤6種類、トランス脂肪酸が含まれることの多い食品6種類を指す。

社会の期待をカタチに

お買物が環境保全や 社会貢献につながる商品

完全養殖

養殖魚が産卵した卵を成魚に成長させる「完全養殖」で、天然資源を守ります。イオンは、2015年に国内プライベートブランド商品として初めて完全養殖の本マグロの販売を開始し、2017年2月現在、4品目を扱っています。



トップバリュ グリーンアイナチュラル
熊本県産 活メ真鯛

ASC認証商品

海の環境や生きもの、社会や人権に配慮した養殖への認証です。イオンは、2014年にアジア初の認証取得サーモンを発売し、2017年2月現在、5魚種10品目を扱っています。



トップバリュ
ASC認証 骨取り・皮なし白身魚の切身
(パンガシウス)

MSC認証商品

天然魚を減らさないように、海の環境や生きものに配慮した漁業を行っていることへの認証です。イオンは、2006年から取り扱いを開始し、2017年2月現在、国内小売業最多となる18魚種38品目を扱っています。



トップバリュ グリーンアイナチュラル
MSC認証 塩紅鮭

オーガニック商品

健康志向や食の安全・安心への関心が高まっています。イオンは、農水省が定めるJAS有機農産物加工食品の「認定輸入業者」資格を取得し、国内外でのオーガニック商品の開発、調達を推進しています。



トップバリュ グリーンアイオーガニック
オーガニックそら豆、
オーガニック黒いちじく

フェアトレード商品

国際フェアトレードラベル機構が定める基準に従い、2004年より国際フェアトレード商品の開発・販売を行っています。2020年度までに国際フェアトレード認証カカオの取引量を10倍(2012年度比)に拡大する計画です。



国際フェアトレードラベル機構(Fairtrade International)の認証ラベル



トップバリュ フェアトレード
チョコレートミルク



「国際フェアトレード認証調達プログラム」ラベル(カカオ)

・Registered for the European Union at European Union Intellectual Property Office (EUIPO) with registration no. 012422143.
・Registered at the World Intellectual Property Organization (WIPO) according to the Madrid Contract and Protocol with registration no. 1231866.
・日本において登録出願中



トップバリュ
国際フェアトレード認証
カカオ調達プログラム
ひとくちミルクチョコレート

製造過程でも社会的責任を果たすために

イオンサプライヤーCoC

2003年に「イオンサプライヤーCoC(取引行動規範)」を制定。サプライヤー(製造委託先)とともに、安全な労働環境、適正な労働条件、自然環境の保護などの要求事項の遵守をお願いしています。



イオンサプライヤーCoC監査の様子

イオンサプライヤーCoC (取引行動規範)要求事項

1. 児童労働の禁止
2. 強制労働の禁止
3. 安全衛生および健康
4. 結社の自由および団体交渉の権利
5. 差別の禁止
6. 懲罰の禁止
7. 労働時間
8. 賃金および福利厚生
9. 経営責任
10. 環境
11. 商取引
12. 認証・監査・モニタリング
13. 贈答禁止

イオンのお店を拠点に、 環境や社会に貢献する活動を行っています

レジ袋使用量の削減

買物袋持参運動

お客さまにマイバスケットやマイバッグなどを持参いただく「買物袋持参運動」を1991年に開始しました。また、ご希望のお客さまには有料でレジ袋を提供し、その収益金を自治体などを通して地域の環境保全活動に役立てています。2016年度の収益金は約2,800万円でした。



お持ち帰り専用のかご「マイバスケット」



安心してお買物をしていただくために

サービス介助士

高齢者や介助の必要な方が安心してお買物できるよう、約1万人の従業員がサービス介助士の資格を取得しています。

※サービス介助士：公益財団法人日本ケアフィット共育機構が主催認定する資格。



サービス介助士の研修の様子

正しく理解し、適切なサポートを目指す

認知症サポーター

認知症のお客さまに適切なサポートを行えるよう、約6万3,000人の従業員が「認知症サポーター養成講座」を受講しています。

※認知症サポーター：認知症について理解し、認知症の人やその家族を温かく見まもり、できる範囲での手助けをする人のことで、自治体などが実施する所定の講座を受講することで認定される。



「へらそう」「つくろう」「まもろう」

イオンのecoプロジェクト

節電・省エネに対する社会的ニーズの高まりを受けて、イオンは2020年度までの環境目標を策定しました。この目標の達成に向けて2012年9月に「イオンのecoプロジェクト」がスタート。「へらそう」「つくろう」「まもろう」の3つの作戦を展開し、エネルギー使用量の削減、再生可能エネルギーの創出、地域の暮らしのライフラインとして防災拠点の役割を担うことを目指しています。

〈2020年度目標〉

へらそう 作戦

エネルギー使用量
50%削減
(2010年度対比)

つくろう 作戦

再生可能エネルギー
20万kW

まもろう 作戦

全国100カ所の
防災拠点

〈取り組み事例〉



世界の子どもたちを支援

ペットボトルキャップ 回収キャンペーン

2008年より店頭でペットボトルキャップ回収ボックスを設置し、お客さまとともに、貧困に苦しむ子どもたちの支援活動に協力しています。2016年度は、約3億8,312万個のペットボトルキャップを回収し、491万8,131円を寄付しました。



〔3つの国際支援団体〕



公益社団法人
セーブ・ザ・チルドレン・ジャパン



公益財団法人
プラン・インターナショナル・ジャパン



認定NPO法人
世界の子どもにワクチンを 日本委員会

循環型社会を目指して

店頭での資源回収

食品トレイ、紙パック、アルミ缶などの回収ボックスを店頭を設置しています。回収した紙パックやアルミ缶は「トップバリュ」の原料としてリサイクルするなど、資源の循環利用を図っています。



次世代の「エコストア」

スマートイオン

イオンは、2013年2月までに13店舗の「エコストア」を展開。2012年9月からは、5つの基準を取り入れた「次世代エコストア（スマートイオン）」の取り組みを開始し、10店舗をオープンしています（2017年2月現在）。

あなたと、育てる明日のまち。



5つの基準

- スマートエネルギー
- 電子マネー・ネットとの融合
- 交通環境（スマートモビリティ）
- 生物多様性・景観
- 防災・地域インフラ



※エコストアの定義：従来型店舗と比べて20%以上のCO₂排出量削減と、CASBEE（2001年に国土交通省主導のもとで開発された建築物の環境性能評価システム）A評価以上を取得した店舗。

みんなが笑顔になれるような 地域社会づくりに取り組んでいます

地域の活性化を目指して 包括連携協定

防災・福祉・環境保全の推進や、商業・観光の振興に向けて、地域行政とイオン双方の資源を有効活用するために、1道2府41県16政令市42市町と協定を締結しています(2017年2月現在)。店舗での特産品フェアや観光PR、「ご当地WAON」の発行のほか、災害発生時には物資の供給や避難場所の提供を行っています。

地域に貢献する電子マネー ご当地WAON

地域や自治体との連携のもと、126種類の「ご当地WAON」を発行しています(2017年2月末現在)。ご利用金額の一部を地域に寄付し、環境保全、観光やスポーツの振興などに役立てていただいています。



2016年度に発行した「ご当地WAON」の一例
上) 大好きふくしま元気WAON
下) 徳山動物園WAON

障がい者の方々を応援

イオン社会福祉基金

1977年に労使双方で「イオン社会福祉基金」を設立し、「福祉車両の贈呈」と「ボランティア活動」を柱に活動を行っています。2017年2月までに75台の福祉車両を贈呈し、約1万1,000施設でボランティア活動を行いました。



福祉車両贈呈式

環境学習・体験を通じ、子どもたちの健全な育成を目指す

イオン チアーズクラブ

小学1年生から中学3年生までの子どもたちが、環境に興味を持ち、考える力を育てながら、集団行動を通じて社会的なルールを学んでいくクラブです。2016年度は「動物」をテーマに、全国で約450クラブ、約7,800人が参加しました。



動物とのふれあい体験

松阪牛の牧場訪問

サラダ白菜の根の観察

お買物を通じて地域社会を応援

イオン 幸せの黄色いレシート キャンペーン

毎月11日の「イオン・デー」に、お客さまが受け取られた黄色いレシートを、地域のボランティア団体名が書かれた店内のボックスに投函していただくことで、レシート合計金額の1%相当の品物を各団体に寄贈しています。2016年度は、のべ約2万5,000団体に総額3億3,118万円相当の品物を寄贈しました。



東北創生の輪を広げる活動

東日本大震災から6年。イオンは「にぎわい東北-つなげよう、ふるさとのチカラ」をテーマに、「地域(ふるさと)の創生」に向けてさまざまな取り組みを行っています。労使一体で取り組む「イオン 心をつなぐプロジェクト」では、累計20万2,000本の植樹を実施。また、のべ約23万7,000人の従業員がボランティア活動に参加しています(2017年2月現在)。



「にぎわい東北」フェアを開催



東北の創生に向けた4つの方針

- 1 事業を通じた地域産業の活性化
- 2 雇用の創出と働きやすい環境づくり
- 3 地域の未来を“ともにつくる”
環境・社会貢献活動
- 4 安全・安心にくらせるまちづくり



宮城県丸森町耕野地区での「ころ柿」の収穫・皮むきのボランティア活動

「平成28年熊本地震」への対応



合計
約6億900万円
寄付

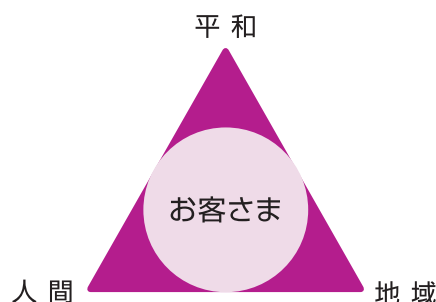
全国の「イオン」「イオンスタイル」約510店舗で復興応援特別企画を開催

東日本大震災での経験を踏まえ、被災地の復旧・復興に全力で取り組みました。各自治体との包括協定に基づき約530万個の緊急支援物資を迅速に提供したほか、お客さまからの募金や「イオン 黄色いレシートキャンペーン」による寄付金など合計約6億900万円を寄付しました。

イオンの基本理念



お客さまを原点に平和を追求し、人間を尊重し、地域社会に貢献する。



イオン(AEON)とは、ラテン語で「永遠」をあらわします。

私たちの理念の中心は「お客さま」：イオンは、お客さまへの貢献を永遠の使命とし、最もお客さま志向に徹する企業集団です。

「平和」：イオンは、事業の繁栄を通じて、平和を追求し続ける企業集団です。

「人間」：イオンは、人間を尊重し、人間的なつながりを重視する企業集団です。

「地域」：イオンは、地域のくらしに根ざし、地域社会に貢献し続ける企業集団です。

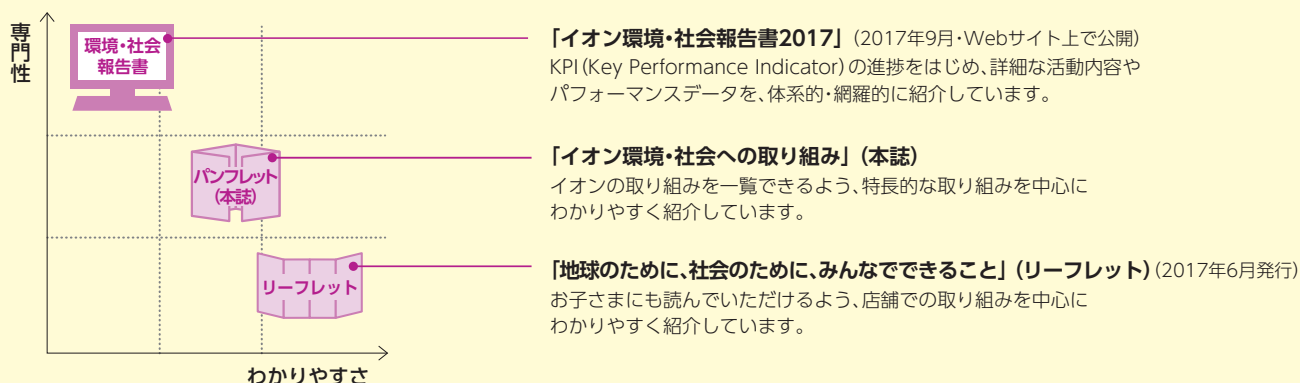
イオンは基本理念のもと、**絶えず革新し続ける企業集団**として、「**お客さま第一**」を实践してまいります。

イオン サステナビリティ基本方針

私たちイオンは、「お客さまを原点に平和を追求し、人間を尊重し、地域社会に貢献する」という基本理念のもと、多くのステークホルダーの皆さまとともに、持続可能な社会の実現を目指します。

取り組みにあたっては、「低炭素社会の実現」、「生物多様性の保全」、「資源の有効利用」、「社会的課題への対応」を柱とし、グローバルに考え、それぞれの地域に根ざした活動を積極的に推進してまいります。

イオンの環境・社会コミュニケーションツールの紹介



Webサイトでもさまざまな情報を掲載しています。

イオン 環境・社会貢献活動

検索

「イオンワンパーセントクラブ」「イオン環境財団」による環境・社会貢献活動も推進しています

公益財団法人 イオンワンパーセントクラブ

<http://www.aeon.info/1p/>

イオングループ主要各社が、税引き前利益の1%を同財団に寄付。「次代を担う青少年の健全な育成」「諸外国との友好親善の促進」「地域社会の持続的発展」を柱とした活動に取り組んでいます。



公益財団法人 イオン環境財団

<http://www.aeon.info/ef/>

イオンと同じ志を有する環境団体の助成を目的に設立された財団です。世界各地における植樹活動をはじめ、生物多様性の保全、環境分野における人材育成などを支援しています。



本誌へのご意見・ご質問等は下記にご連絡ください。

イオン株式会社 グループ環境・社会貢献部

〒261-8515 千葉県美浜区中瀬1-5-1

Tel:043-212-6037 Fax:043-212-6790

イオンWebサイト

<http://www.aeon.info/>

